

単元目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- 言葉がもつよさに気付くとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

全10時間（プロジェクトタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

Choice（第2時）

子どもは、学習のゴールに向かうために話し合いたいことから問いを立てる。教師は、子どもから出た、話し合いたいことを整理し、学習のゴールに向かう問いを子どもが立てられるように支える。

Challenge（第1時）

子どもは、これまでの学習から学習のゴールを設定する。教師は、これまで読んできた物語での学びを整理する。

追究

第3・4時：「カレーライス」にはどんな役割があるのか。  
【問い1】

出合い

第1・2時：学習のゴールに向かうためにみんなで話し合うことを決める。

今の子ども姿

9月に「きつねの窓」でファンタジー作品の魅力を味わった子どもは、次単元「作家になろう」でファンタジー作品を書いた。この単元で子どもたちは物語の構成に留まらず、これまでの読みの経験を生かして、表現の工夫を意識して物語を書いた。物語を書くことを楽しみながらもその難しさを感じ、これまで読んできた作品がいかに考え抜かれて書かれているかということに気付いた。

そうして子どもの意識は、今再び「読む」に向かっている。これまでと同じように、問いについて自分なりの答えを探す中で、表現の仕方の工夫など、これまでなかった新たな「作者の視点」をもって読みを進めていこうとしている。

「学びに向かう力」が涵養されている姿

次の単元や他教科等、実生活などで、伝えたい内容が伝わるように表現の工夫にこだわって文章を書いたり、書き方の工夫に着目して文章を読んだりしようとしている姿。

この物語はどんな表現の工夫を使って何を伝えようとしているのか

Check（第10時）

子どもは、本単元の学びを振り返り、次の単元に生かそうとする。教師は振り返りの視点を明らかにしてまとめるよう促す。

Creativity（第9時）

子どもは学習のゴールに対する自分の考えを整理して表現する。教師はこれまで考えてきたことを整理して提示する。

Critical Thinking（第3～8時）

子どもは対話の中で自分の考えを更新する。教師は他者との感じ方や考え方の違いに着目できるように促すことで、思考を支える。

Collaboration（第3～8時）

子どもは他者と交流しながら考えを深める。教師は十分な時間を確保し、柔軟な活動形態や場の設定をする。

振り返り

第10時：単元を振り返る。

第9時：学習のゴールに対する自分の考えをまとめる。

第7・8時：ひろしはなぜまたカレーライス【問い3】を作ろうとしたのか。

第5・6時：なぜひろしは謝ることができた（本時：第6時）かったのか。  
【問い2】

単元構想の意義

本単元で扱う教材「カレーライス」は、中心人物である「ひろし」とその父との関係が丁寧に描かれた物語である。題名になっている「カレーライス」は「ひろし」の心情や成長の象徴として登場する。「カレーライス」の描写の中に、「ひろし」が思春期特有の父への感情の揺れを経験する様子が表現されており、父との距離や関係性を模索していく様子を読み取ることができる。

この物語を、「ひろし」と同じような経験を想起して共感しながら読む子どももいるであろうし、まだ「ひろし」の気持ちには共感できない子どももいるはずである。登場人物と自分自身を重ねながら読むことは、子どもにとって自然な読み方であり、本単元でも子どもは叙述から「ひろし」の心情の変化を捉えながら、自分の感情と比べるであろう。

加えて、これまで子どもたちは「読むこと」と「書くこと」を往還して言葉の力を高めてきており、前単元「作家になろう」を経て、作者を意識して物語を読もうとしている。この二つの読みの視点を織り交ぜて読むことで、表現の工夫とその効果をより捉えることができ、一つ一つの言葉に着目して豊かに読むことができると考え本教材を扱うこととした。

本時の授業 (6/10)

- 1 日時 令和6年11月7日(木) 14:25~15:10
- 2 場所 6年花組教室
- 3 目標 表現の工夫と結び付けながら、問いに対する自分の考えを持ち、まとめることができる。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- 友達と対話する中で、納得のいくまで考え抜いて自分なりの考えにたどり着こうとしている姿。(粘り強さ)
- 学習のゴールを意識し、表現の工夫に着目しながら対話の中で読みを深めている姿。(学び方)

学習活動	1 問いを確認する。	2 問いについて対話する。	3 問いに対する自分の考えをまとめる。	3 今回の問い、学習の進め方について振り返る。
		<b>問い「なぜひろしは謝ることができなかったのか。」</b>		
予想される子どもの意識の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間に個人で考えたことを友達と話して、考えを広げたい。</li> <li>・前時から考えている問いについて、この時間に自分なりの答えを出したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に謝っておけばよかったのに、タイミングを逃して謝ることができなくなってしまったと思うよ。</li> <li>・自分だけが悪いわけじゃないから、謝る気持ちになれなかったのだと思うよ。</li> <li>・高学年になって、親に対する気持ちが変わってきているし、自分のことを分かってくれない親の言動が許せなかったのじゃないかな。</li> </ul> <p><b>Critical Thinking</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことをいつまでも子ども扱いして理解してくれないお父さんにイライラしていたので謝れなかったのだと思う。前の問いでも話し合ったようにその自分の成長を「カレーライス」が象徴している。</li> <li>・心が成長して、今までできていたことができなくなった。心の中がもやもやして素直になれない気持ちはよく分かる。最後の一文が、僕の心の複雑さを表しているのだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えを聴いて、本文の表現を読み直すことで、新しいことに気付くことができた。(粘り強さ)</li> <li>・今回の問いは前の問いと関連していて、「カレーライス」の表現を読むことでひろしの心情を深く読むことができたので問いの順番がよかった。(学び方)</li> <li>・作者がなぜそのような表現をしたのかを考えることで、問いの答えに近づくことができた。(学び方)</li> </ul>
指導 (○) と 評価 (●)	○ 学習のゴールと本時に考える問いを整理して、本時の活動を確認する。	○ 対話の中で考えを深めることができるように、いろいろな考え方や感じ方があることを話題にする。 ○ これまでの学びを想起したり、生活経験と関連付けて考えたりしながらも、叙述に基づいて話し合うことができるようコーディネートする。	○ 筆者が伝えようとしたことについて深く考察するために、表現の工夫と結び付けながら考えるように促す。 ● 表現の工夫と結び付けながら、問いに対する自分の考えを持ち、まとめることができたか。 【様態・ワークシート】	○ 学習の仕方や問いがよかったかという明確な視点で振り返ることで、次の学習に生かせるようにする。 ○ 本時の学びを整理できるように、まとめシートを書く時間を十分取る。

場面	単元の評価規準
出合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習のゴールを設定し、「問い」を作ることによって単元の見通しを持ち、これからの学習に前向きに取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表現の工夫を捉えることができる。 【知識・技能】</li> <li>● 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 【思考・判断・表現】</li> <li>● 人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。 【思考・判断・表現】</li> <li>● 表現の工夫と結び付けながら、問いに対する答えを持ち、まとめることができる。 【思考・判断・表現】</li> <li>● 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 【思考・判断・表現】</li> <li>● 学習のゴールについて自分なりの考えを持つことができる。 【思考・判断・表現】</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 言葉がもつよさに気付くとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>